

## 大町市議会議員定数等検討委員会（第8回）会議概要

1 開催日時 平成25年1月22日（火）午後1時30分から午後3時15分

2 開催場所 市議会第3委員会室

3 出席委員 八木 聡（委員長） 眞嶋 強志（副委員長）  
松島 吉子 太田 昭司  
高橋 正 荒澤 靖  
中牧 盛登 一本木基善（公募委員）  
大日方三郎（公募委員）

### 4 会議事項

- (1) 前回の会議概要確認
- (2) 視察研修のまとめについて
- (3) 議員定数についての諸説
- (4) 議員活動実態調査実施上の課題等について

### 5 会議内容（決定事項等）

- (1) 前回の会議概要の確認
  - ・前回の会議概要について確認した。
- (2) 視察研修のまとめについて
  - ・各委員から視察研修のまとめについて意見交換を行った。  
(委員からの主な意見)
    - ・2委員会所属は大変ではないかと思う。集中して審査できるのは単独所属ではないか。
    - ・議員定数を一度減らしてしまえば、元に戻すことは難しい。議員報酬と合わせて、慎重に検討していくことが必要である。
    - ・委員会の構成人数が少なくなることにより、発言者が偏る懸念がある。
    - ・飯田市の前議長さんの「結論は急ぐことはない。」という言葉が印象に残った。腰を据えて検討することが必要である。
    - ・会派でも飯田市議会を視察したが、会議が多く大変で体力的にも厳しいという話を聞いた。議員の専門性も必要であるので、委員会は単独所属が望ましい。
    - ・どちらの市議会も定数を削減した。議員が忙しいのは仕方ない。少ない人数で充実した議会活動ができていればよい。議員報酬とは別の話である。
    - ・常任委員会の複数所属は現実的ではない。常任委員会の構成人数について、現在の6人では無理がある。1委員会に7～8人は必要ではないか。
    - ・仮に定数を減らすのであれば、2委員会にして7～8人ということになる

が、担当分野が3分の1から2分の1となる。

### (3) 議員定数についての諸説

- ・配布資料を委員で読み合わせを行い、共通認識と理解を深めた。

(配布資料) ・「地方分権時代における地方議会と地方自治」

- ・「議員定数に関する識者の意見」
- ・「議員定数の考え方について」
- ・「地方議会改革—自治を進化させる新たな動き」

(委員からの主な意見)

- ・議会はもっと議論しなければいけない。
- ・これまでの経験から、1委員会の人数として6～10人というのは納得できる数字である。これ以上減らせば、委員会として機能しない。
- ・定数を減らすことにより地区代表という意味合いが薄まるが、候補者が出てこないという事例もある。
- ・2委員会として守備範囲が広くなり日数がかかっても、7～8人の方が議論が深まるのではないか。
- ・以前に比べ委員会の人数が減ったことにより、発言者が偏っているように感じる。専門性の高い議員が少なくなった。
- ・委員会では経験の長い議員の質問を聞いて理解が深まることもある。行政側の答弁がうまく引き出され、問題点も見えてくる。質疑がないと資料にあるものだけで判断しなければならない。
- ・議員にはそれぞれ得意な守備範囲がある。委員会の人数が少なくなれば専門家がなくなる。ある程度の数は必要である。

### (4) 議員活動実態調査実施上の課題等について

- ・9月～11月分の調査結果を配布した。

(委員からの意見)

- ・集計を時間単位でまとめたが、活動日数の把握も必要ではないか。
- ・月ごとに同じ議員に振られている記号が違うのはどうか。統一した方が良いのではないか。
- ・北アルプス広域連合議会の本会議・委員会への出席の取り扱いはどのようにするか。  
→本会議・委員会欄に記入することとする。
- ・議選の監査委員の活動はどのように取り扱うか。  
→議会代表欄に記入することとする。